２５A同期会　　令和３年度後期活動

「　動　く　市　政　教　室　」　　の　報　告

NO.1

　10月5日(火)、令和３年度２５A同期会の秋の見学研修会は「動く市政教室」南区を知ろうということで、味方地区の重要文化財である笹川邸(旧笹川家住宅)と曽我・平澤記念館、月潟地区では角兵衛獅子に関する資料と、月潟手打鎌の製造過程などを展示している郷土物産資料館を見学しました。
月潟地区に伝わる伝統芸能「角兵衛獅子」はポピュラーではありますが、文献なども少なく、その由来や歴史について不明な点やミステリアスなところもあり、私自身に知識や関心が少し薄いところがありました。
今回はいい機会に恵まれたと思いました、したがって主に「角兵衛獅子」に焦点を中てて報告します。

　月潟地区に伝わる伝統芸能「角兵衛獅子」の発祥には二つの言い伝えがあるとされる。一つは常陸の国(現在の茨城県)から月潟へ移り住んだ角兵衛という男が、何者かに殺されるれる際に相手の足の指を噛み切った。そこで、残された２人の息子が大衆の中で逆立ちをする芸を思いつき、「足を上にして、足の指のないものに気をつけよ」と歌い囃しながら、父の仇を探して諸国を巡り歩いたと伝えられている。
もう一つは、かって月潟地区は沼地で、毎年のように川の氾濫があり、住民は飢えに苦しんでいた。これを憂えた農民角兵衛が獅子舞を草案し、農業のかたわらこれを村の子どもに教え込み、諸国を巡業したとも伝えられている。

(出典:『角兵衛獅子の由来』)

角兵衛獅子の起こりは、いつの時代か詳かでない。
天明元年(１７８１年)二月本村庄屋から石瀬大官所へ提出された「越後国獅子踊由来」には「由緒その昔、焼失致し候由申し伝えへのみに候」とあります。

『越後名寄』
宝暦６年撰・(１７５６１年）には「何の時代に初めしにや、最も昔めきたる者なり」

『越後野誌』
文化１２年撰・(１８１５年）にも「その舞曲頗る古風なれども、その初め不詳」とあります。

また越後獅子とは、越後の蒲原を本拠とし諸国を歩いて角兵衛獅子の扮装で踊りや軽業を行う大道芸およびその芸人をいう。新潟市南区を発祥とする郷土芸能である角兵衛獅子を題材とした地歌、長唄、常磐津、歌謡曲または日本舞踊。

越後国西蒲原郡月潟(つきがた)地方から出る獅子舞。正月などに、子供が小さい獅子頭をかぶり、高下駄をはき、身をくねらせ、さか立ちして、手で歩くなどの芸をしながら、銭を請い歩く角兵衛獅子、蒲原獅子、月潟獅子といい江戸では角兵衛獅子、略して角兵衛という。親方の笛・太鼓に合わせて曲芸をして銭を請うた。江戸中期から後期に盛行。

〝打つや太鼓の音も澄みわたり、角兵衛角兵衛と招かれて、居ながら見する
石橋の、浮世を渡る風雅者、うたうも舞うも囃すのも、一人旅寝の草枕
・・・・・(中略)・・・・・ 越路潟、お国名物はさまざまあれど、田舎
訛りの片言交じり、獅子唄になる言の葉を、雁の便りに届けてほしや・

これは、文化８年(1811年)に杵屋六左衛門が作曲した長唄「越後獅子」である

また、常磐津「后の月酒宴島台」俗に「角兵衛と女太夫」には、

〝言うておくれな月がたの、田舎者じゃとおなぶりか、思いくらべをしょうなれば、浅間の煙と煙草の煙。　など唄われ江戸時代の大衆に歓ばれたと言い伝えられています。

嬉遊笑覧(きゆうしょうらん)
たのしみあそぶこと、笑いながらみること。自分のものを他人に見てもらうときの謙譲語。

常磐津(ときわず)　浄瑠璃節の一派
常盤津文太夫の創始、曲風は義太夫に近く、半ば語り、半ば唄い江戸時代の生活に適合して広く庶民階級に行きわたった。舞踊の他にも適し歌舞伎にも密接に結びついた。

義太夫(ぎだゆう)
①竹本義太夫、②豊竹義太夫、③義太夫節、浄瑠璃節の異称
歌舞伎脚本で人形浄瑠璃の戯曲を移入したものの称

人形浄瑠璃(にんぎょうじょうるり)
①浄瑠璃・三味線に合わせて曲中人物に扮装した人形を操る日本固有の人形劇、今は文楽という語で代表される

戯曲(ぎきょく)
①上演する目的で書いた演劇の脚本
②文学の一形式、主として会話・演劇によって表現される芸術作品

長唄(ながうた)
①上方の長歌、端唄・小唄等に対して、江戸初期の上方に行われた長偏の三味線歌曲、②江戸長唄。通常、単に長唄という。歌舞伎踊唄・上方唄などを基として、大薩摩やその他の浄瑠璃の節調も加味し、江戸音曲の中心として発達した。曲には「勧進帳」など劇に伴うもの、「越後獅子」など舞踊に伴うもの「吾妻八景」など舞台を離れた素唄物の三種別がある。

浄瑠璃(じょうるり)
清浄、透明の瑠璃(七宝のひとつ・青色の宝石・ガラスの古名・紺瑠璃の異称)清らかで汚れのないこと。
平曲・謡曲などを源流にした音曲語り物。主として琵琶や扇拍子を用いて、ひろく民衆に迎えられた新音曲。

囃子(はやし)
能・歌舞伎・長唄・民俗芸能などの各種の芸能で、拍子をとり、または情緒を添えるために伴奏する音楽。笛・太鼓・鼓・三味線・鉦などの楽器を用いる。歌舞伎囃子・神楽囃子・祭礼囃子・馬鹿囃子など

時代の流れによる衰退

角兵衛獅子は、江戸時代が一番隆昌した時で時代の寵児でもありましたが、明治時代に入るや時代の流れとともに衰退の運命に投ぜられていきました。

新潟市無形民俗文化財の指定と囃子の復活

角兵衛獅子の持つ長い歴史と文化的価値が認められ、平成２５年４月１５日には新潟市無形民俗文化財に指定されました。
また録音盤にての公演を余儀なくされてきましたが、平成27年3月に約４０年ぶりに生演奏の囃子が復活しました。
縞(しま)の小倉のモンペに木綿(もめん)の黒足袋に足駄がけ、筒袖(つつそで)に襷(たすき)の垂れも長々と、頭上に小さな獅子頭を戴いて舞う可憐な姿は現在も続いています。

角兵衛獅子の舞

「舞い込み」・「金の鯱鉾」・「かにの横ばい」・「乱菊」・「俵転がし」・「青海波」・「水車」・「人馬」など多くあります。

角兵衛獅子は、江戸において庶民とりわけ粋人といわれる人達によって、義太夫・長唄・浄瑠璃文化などによりいままで引き継がれてきました。
また月潟地区では、新潟市無形民俗文化財の指定により生演奏によるお囃子の復活と、児童らによる角兵衛獅子の舞の保存に日夜取り組んでいます。

以 上

２５Ａ同期会　森　俊 雄